



令和6年3月27日
琉球大学

琉球大学病院は、2025年1月に
「西普天間キャンパス」へ移転・開院いたします

琉球大学医学部及び病院は、国からの支援及び沖縄県・宜野湾市の協力のもと、2025年に新キャンパス「西普天間キャンパス」へ移転します。駐留軍用地跡地利用のモデルケースとして位置付けられている沖縄健康医療拠点の中核として、沖縄振興や長寿県沖縄の復活、国際保健（グローバル・ヘルス）への貢献を目指します。

2025年4月の医学部の移転・開学に先立ち、大学病院は2025年1月より新病院での診療開始を予定しています。移転作業のため、診療の一部縮小など、皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※新病院については次頁以降参照（別添フライヤーあり）

※新病院における病院機能の拡充については「参考①」参照

※キャンパス移転の経緯、基本構想については「参考②」参照

※「沖縄健康医療推進基金」へのご協力については「参考③」参照

1. 新病院の概要について

- ・ 所在地：〒901-2725
沖縄県宜野湾市字喜友名1076番地
(西普天間住宅地区跡地)
- ・ 病床数：620床
- ・ 階数：地上14階
- ・ 面積：延べ床面積 約69,700㎡
- ・ 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造（免震構造）
- ・ 主な施設認定等：
 - 特定機能病院 ○へき地医療拠点病院
 - 地域災害拠点病院 ○沖縄 DMAT 病院
 - 都道府県がん診療連携拠点病院
 - 沖縄県難病診療連携拠点病院
 - 日本臓器移植ネットワーク会員施設（腎臓移植・膵臓移植）
 - 造血幹細胞移植推進拠点病院
 - 日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver2.0） ほか

2. 新病院における診療開始日等

- ・ 新病院外来診療開始日：2025年1月6日（月）予定 ※予約済の方のみ
- ・ 現病院外来診療最終日：2024年12月27日（金）
- ・ 予定入院・予定手術休止期間：
2024年12月23日（月）から2025年1月6日（月）まで
- ・ 救急についてはこの限りでなく、休止期間、受入先（現病院・新病院）については、時期が近づき次第改めてご案内予定です。

3. 新病院の機能について

本院は、「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。」という理念を掲げています。

新病院では、高度医療の導入・地域医療水準向上のため、以下のとおり病院機能の拡充を進めます。※別紙「参考①」参照

- (1) 高度救命救急センターの整備予定
- (2) 手術室・集中治療室の充実
- (3) 移植医療の充実
- (4) 各種インターベンションの実施

- (5) がんセンターの機能強化
- (6) 再生医療の実施
- (7) 災害対応
- (8) スポーツ医療・リハビリの充実
- (9) 医師育成・確保・派遣機能の充実

4. 新キャンパス名称について

医学部及び病院を擁する新キャンパス所在地域全体は、現在、宜野湾市において「西普天間住宅地区」としてまちづくり計画を作成し、区画整理事業や市道（西普天間線）の整備が進められており、当該整備事業との一体性を重視し、「西普天間キャンパス」と決定いたしました。なお、当該地域全体の区画整理事業が終了後（令和9年度以降）、宜野湾市において住居表示が行われる予定です。その際、改めて本キャンパス名を再検討することとしています。

5. 医学部等の開学時期について

医学部、医学研究科、保健学研究科は、2025年4月に開学します。

琉球大学病院

2025.1.6 沖縄健康医療拠点の中核として、
新たに歩み始めます

新キャンパス名称
「西普天間キャンパス」
に決定！
※医学部・研究科は
2025年4月 開学



※イメージは設計段階のものであり、今後の進捗により変更になる可能性があります。

現 病院

外来診療最終日

2024年12月27日（金）

新 病院

外来診療開始日

2025年1月6日（月） 予定

※予約済の方のみ

※予定入院・予定手術休止期間 2024年12月23日（月）～2025年1月6日（月）
※救急はこの限りでなく、休止期間、受入先（現病院・新病院）について、時期が近づき次第、改めてご案内予定です。

新病院の概要

- 所在地：沖縄県宜野湾市字喜友名1076番地
（西普天間住宅地区跡地）
- 病床数：620床
- 階数：地上14階
- 主な施設認定等：
 - 特定機能病院
 - 地域災害拠点病院
 - 都道府県がん診療連携拠点病院
 - 沖縄県難病診療連携拠点病院
 - 日本臓器移植ネットワーク会員施設（腎臓移植・膵臓移植）
 - 造血幹細胞移植推進拠点病院
 - 日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver2.0） ほか
 - へき地医療拠点病院
 - 沖縄DMAT病院



別途マップあり



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS



琉球大学病院
UNIVERSITY OF THE
RYUKYUS HOSPITAL

※移転事業の詳細についてはQRコードからホームページをご覧ください。



アクセスマップ



バスでお越しの場合

⇒ ① 新城バス停 (①②) より徒歩5分

⇒ 普天間バス停 (③④⑤⑥) より徒歩15分

※病院を経由するバス路線及び病院玄関付近のバス停設置について調整中です

お車でお越しの場合

⇒ ② 那覇方面 (国道58号線) から伊佐交差点を右折し、
普天間交差点に向かって県道81号線を直進、左手。

⇒ ③ 那覇方面 (国道330号線) から普天間交差点を左折し、
伊佐交差点に向かって県道81号線を直進、右手。

⇒ 沖縄自動車道北中城ICより車で約10分

① 新城 (あらぐすく) バス停



② 伊佐交差点



③ 普天間交差点



病院機能の拡充

(1) 高度救命救急センターの整備

- ・ 県内初の高度救命救急センターの整備
- ・ Hybrid ER治療ベッド設置
- ・ 救急病床を増床（6床→20床）し、特殊疾患の患者への救命医療を確保
- ・ 移転後速やかに高度救命救急センターの指定を検討中
- ・ 屋上ヘリポートを設置（離島を含む沖縄県全域の救命医療体制の充実）

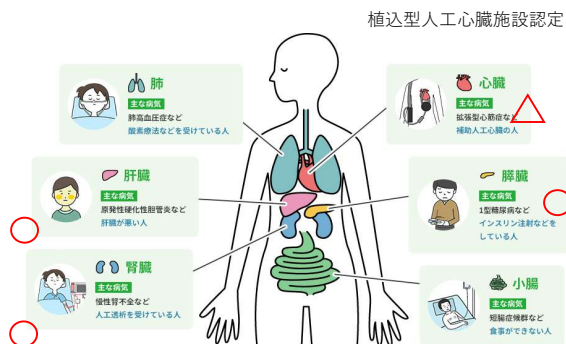
(2) 手術室・集中治療室の充実

- ・ Hybrid手術室（開院時は1室）
- ・ ロボット手術室（2室）
- ・ 内視鏡手術室
- ・ バイオクリーン手術室（2室：移植などに対応） ほか

病院機能の拡充

(3) 移植医療の充実

- ・ 生体肝移植を開始（R2）
- ・ 造血幹細胞移植医療体制整備事業を実施（R2）
- ・ 臓器移植施設の認定（R3）
- ・ 腎移植件数の増加



病院機能の拡充

(4) 各種インターベンションの実施

- ・ 質の高いカテーテル治療の実践
- ・ 県内唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) の施設認定 (H28)
- ・ 経皮的僧帽弁接合不全修復術の施設認定 (R3)

琉球大学病院 ハートチーム

お問い合わせは琉球大学病院 医療情報支援センターまで
TEL 098-895-1371 / FAX 098-895-1498

経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)

経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)

心臓の弁を治療する最新治療法「TAVI」が2019年10月に健康保険適用となりました

TAVI治療実績	TA (経心尖部アプローチ) 276件
335件 (2012年4月～2022年9月)	TF (経大腿部アプローチ) 308件

詳細はこちら

経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)

経心尖部アプローチ

経大腿部アプローチ

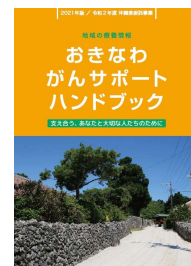
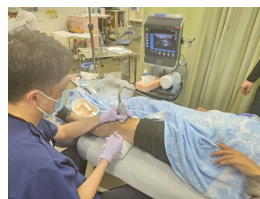
病院機能の拡充

(5) がんセンターの機能強化

- ・ 通院でがん化学療法を受けられる化学療法室のベッド増床
- ・ がん患者と家族支援
- ・ がんゲノム検査治療の推進

(6) 再生医療の実施

- ・ 脂肪幹細胞を用いた臨床研究
 - ⇒ 日本初の顔面への培養脂肪幹細胞移植
 - ⇒ 包括的高度慢性下肢虚血に対する日本初の治験
 - ⇒ スポーツ障害 (四肢の関節) に対する治療
 - ・・・ 抗炎症、軟骨再生など



病院機能の拡充

(7) 災害対応

- ・災害時に大型ヘリが着陸できるヘリポートを地上に設置
- ・移転後、基幹災害拠点病院の指定を検討中(現病院は地域災害拠点病院)
- ・災害時における迅速な医療活動及び食料の備蓄

(8) スポーツ医療・リハビリの充実

- ・スポーツ障害、スポーツ外傷の治療、リハビリ、予防の推進
- ・多様な競技、レベル（プロ、企業、市民、ジュニア）に対応
- ・クラウドファンディングによる集束型体外衝撃波の導入

ドクターヘリ
(屋上ヘリポートへ)



集束型体外衝撃波
(令和5年8月クラウドファンディング目標達成!)



病院機能の拡充

(9) 医師育成・確保・派遣機能の充実

- ・沖縄県や医師会との連携により県全体で医師確保派遣体制を構築し、離島・へき地等の医療提供体制を確保するための体制整備・強化
 - ⇒公立沖縄北部医療センター内に地域医療教育センター（仮称）を設置し連携強化
 - ⇒地域医療人材育成センターおきなわ（仮称）の設置
 - ⇒おきなわクリニカルシミュレーションセンターを活用した県内外と連携した専門研修の充実化

1. 移転の経緯

- ・平成26年6月開催の「駐留軍用地跡地利用推進協議会」（構成員：内閣府沖縄担当大臣、外務大臣、防衛大臣、沖縄県知事、宜野湾市長等）にて、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地への琉球大学医学部及び病院の移設を含めた国際医療拠点形成を推進することが決定しました。
- ・この移設事業は、平成26年度の「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」に明記され、国の重要施策として位置付けられました。令和5年度に「沖縄健康医療拠点」が再び記載されました。
- ・平成27年7月に内閣府、文部科学省、沖縄県、宜野湾市等を構成員とする「西普天間地区における国際医療拠点の形成に関する協議会」が発足。平成29年4月に「国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点について」と題し協議会報告がまとめられました。
- ・沖縄健康医療拠点整備による跡地利用は、大型商業施設の誘致などこれまでの跡地利用と違い、駐留軍用地跡地利用のモデルケースとして位置付けられ、沖縄振興への貢献が期待されています。

2. 移転の基本構想

医学部及び病院では、以下の通り「国際化」、「人材育成」、「先端研究・産業振興」、「医療水準の向上」を移転構想の柱としています。

- ・国際化 ～未来を拓く国際性豊かな医療拠点～
国際水準の教育と医療の実現、また研究体制の構築に向け、国際医療拠点に相応しい機能と設備の整備を進めます。
- ・人材育成 ～国際的な医療人材の育成と交流拠点の形成～
ニーズに柔軟に対応でき、また国際的に通用する教育システムの構築を進めるとともに、国内外大学等との連携体制の強化を図ります。
- ・先端研究・産業振興 ～世界に誇れる医学研究拠点の形成と産業振興～
沖縄特有の環境や資源を活かしつつ、最先端分野の研究の充実を図るとともに、人材が集まる組織の枠を超えた研究組織の構築を目指します。
- ・医療水準の向上 ～高度医療の提供による拠点形成～
中核病院としてがんや救急医療、また移植医療等への対応強化を図るとともに、災害対応や遠隔診療等の更なる充実により医療水準の向上を目指します。

沖縄健康医療推進基金



イメージ図

～沖縄の健康医療の未来にむけて～

平成27年3月に返還された西普天間住宅地区の跡地利用にあたり、「沖縄健康医療拠点」の整備が計画されています。

琉球大学医学部・病院は、令和6年度に西普天間住宅地区跡地に移転し、沖縄健康医療拠点の中核として、沖縄振興や長寿県沖縄の復活を目指します。

引き続き教育・研究・診療活動に邁進してまいります。どうぞ多くの皆様のご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

ごあいさつ

琉球大学医学部・病院の活動に対し、日頃より、温かいご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

沖縄県はかつて、平均寿命が男女ともに日本一の健康長寿の島として知られていました。しかし、戦後の生活習慣の変化等により、平成12年に男性の平均寿命が4位から26位に急落し、沖縄県は健康長寿ブランドの再構築を目指しています。さらに、令和2年、新型コロナウイルスの感染拡大を機に、感染症の発生動向を監視し、拡大を防止する機能の構築が求められています。

琉球大学医学部・病院は、沖縄県唯一の医師養成機関及び特定機能病院として、これまで教育、研究、診療活動を通じて沖縄県の地域医療に大きな役割を果たしてきました。

沖縄健康医療推進基金は、令和6年度の琉球大学医学部・病院の移転にあたり、県民のみなさまへ、より快適な診療環境をご提供するために、また教育・研究環境を充実させるために設立いたしました。

沖縄県の医療発展のためにも、多くの皆様からのご寄附をお願いいたします。

令和2年8月20日

理事・副学長
(病院・地域医療・
キャンパス移転担当)
大屋 祐輔



沖縄健康医療拠点

沖縄健康医療拠点は、沖縄振興への貢献、「長寿県沖縄」の復活、国際保健（グローバルヘルス）への貢献を目指し、以下の3つを柱として形成します。

3つの柱

I. 高度医療・研究機能の拡充

- 生活習慣病等の予防、希少性難治性疾患等の治療法解明への貢献を目指します。
- 感染症研究拠点を整備し、感染症の発生動向の監視、拡大防止機能の構築を目指します。

II. 地域医療水準の向上

- 沖縄県や県内の各医療関係者と協力し、離島・へき地を含む沖縄県内の医師確保派遣体制の構築を目指します。

III. 国際研究交流・医療人材育成

- 海外大学や研究機関等との共同研究を継続します。
- 先進医療・地域医療に必要な人材の育成を継続します。



イメージ図

琉球大学医学部・病院の特色

【教育】

沖縄県出身の学生を地域枠として医学科に受入れ、離島地域病院実習を含む地域医療教育に力を入れています。

【研究】

がん、脳疾患、循環器疾患などの先進的な研究に加え、亜熱帯気候下に位置する地域特性に根ざした研究にも力を入れています。

【診療】

沖縄県唯一の特定機能病院、エイズ診療拠点病院、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療拠点病院として先進医療に取り組み、県民にとり「最後の砦」としての機能を果たしています。

寄附金の使用用途（例）



患者さんに快適な環境で通院・療養いただくため、設備を整備



学生により充実した学習環境を提供するため、設備を整備



国際化に対応するため、多言語対応の看板・掲示板・サインを設置

寄附方法

沖縄健康医療推進基金は、以下の方法でご寄附いただけます。

■ クレジットカードによるご寄附

①以下のURLかQRコードから琉球大学基金Webサイトにアクセスください。
<http://www.kikin.jim.u-ryukyu.ac.jp/>



②「寄附をする」をクリックください。



③「寄附情報入力画面」の「寄附目的」から「琉球大学沖縄健康医療推進基金」を選択いただき、必要な情報をご入力の上、クレジットカードによる決済をご利用ください。

■ 銀行振込によるご寄附

別添の払込取扱票に必要な事項をご記入の上、ゆうちょ銀行・郵便局又は指定振込先金融機関の本支店窓口でお手続きください。

【お問合せ】 琉球大学基金室
〒903-0213 沖縄県中頭郡千原1番地
Mail: kikin@acs.u-ryukyu.ac.jp
Tel:098-895-9013
Fax:098-895-8013

税制上の優遇措置

琉球大学基金へのご寄附に対しましては、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置が受けられます。別途お送りする「領収書」を控除証明書として確定申告の際にご利用ください。

■ 個人からのご寄附

①所得税 → 所得控除

…寄付金額から2,000円を引いた額を、当該年の所得金額から控除できます。詳細は、琉球大学基金Webサイトをご確認ください。

②住民税 → 個人住民税の控除

…お住まいの都道府県・市町村が条例で本学を指定している場合のみ対象です。詳細は、お住まいの都道府県・市区町村へお問合せください。

■ 法人からのご寄附

「全額損金算入」が可能です。詳細は、琉球大学基金Webサイトをご確認ください。

寄附者顕彰

ご寄附の際にご芳名の公表について同意された方々を大学広報誌・基金Webサイトにて顕彰しております。なお、Webサイトでは、併せて寄附の際に本学へいただいたメッセージも公開しております。